

創立60周年式典を開催

公私病連ニュース

発行所
一般社団法人
全国公私病院連盟
東京都台東区寿4丁目15-7(〒111-0042)
食品衛生センター7階
TEL03(6284)7180 FAX03(6284)7181
https://www.byo-ren.com/
編集
全国公私病院連盟・広報委員会
毎月1日発行 年間購読料1,000円
(購読料は会費に含まれます)

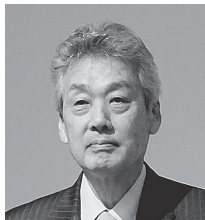
国民医療の
確保のために
診療報酬の
引き上げを

創立60周年記念講演

日本医師会の医療政策

日本医師会 会長

松本吉郎 先生



7月11日に行われた全国公私病院連盟の創立60周年記念式典で、日本医師会会長の松本吉郎先生による記念講演「日本医師会の医療政策」が行われました。



創立60周年 記念講演会のもよう

いる鉛筆

〈3月1日号の続き〉平成の初め、東行庵主宮家が絶家となり、本山から他寺との兼務住職が赴任し、東行庵の実権は代表役員が握った。東行記念館は空調もなく、晋作の遺品の劣化を恐れた学芸員や高杉家が設備の改善を要望したが拒否▼平成十五年、代表役員は東行記念館の閉館と職員全員を解雇し、記者会見で、東行庵は寺であり、歴史の偉人の遺品の管理・保存・研究の場ではないと明言。高杉家は、遺品を引き取り、学芸員は遺品とともに萩博物館に駆け込んだ。一連の騒動が放映されると、下関市民は驚き怒り、何故か傍観していた下関市もやっと動き、下関市、萩市、東行庵、高杉家で協議し、遺品は、萩一、下関二の割合で分割管理で合意。下関市は、旧館を全面改装し下関市立東行記念館として再開館すると発表、一件落着と誰もが思った。直後、代表役員は、遺品は高杉家から東行庵への寄贈であり所有権は東行庵にあると提訴。最高裁まで争ったが敗訴。組織のトップの誤決断が招いた珍騒動であった▼組織が国だとトップの誤決断は重大で、第二次大戦のヒトラーや東条と同様、今もプーチンやネタニヤフらが多くの民衆の生命を奪い続けている。(K・Y)

全国の公的・私的病院が団結し、組織医療の向上と病院の経済的・社会的地位の維持・発展をめざして

連盟還暦に寄せて

全国公私病院連盟

会長 邊見公雄



全国公私病院連盟にわたって約30年間の一番の思い出は、「中央社会保険医療協議会(中医協)に真の病院代表を」との当時の竹内正也先生(当時・全国公私病院連盟・会長、※以下、当時)の御下命で、山本修三先生(日本病院会・会長)、豊

田堯先生(日本医療法人協会・会長)、故・佐々英達先生(全日本病院協会・会長、鮫島健先生(日本精神科病院協会・会長)や故・小山田恵先生(全国自治体病院協議会・会長)方を中心とした11病院団体が慎重に審議を重ね、平成17年(2005年)に「日本病院団体協議会(日病協)」を設立したことである。これにより、日病協は、日本医師会以外の中医協委員の推薦団体として厚生労働省からお墨付きをもったのである。投票により、日本病院会と全国公私病院連盟から委員を出すことになり、石井映禰先生(日本病院会・常任理事、川崎幸病院・院長)と私(全国公私病院連盟・副会長、赤穂市民病院・院長)が中医協委員に任命され、チーム医療や医療安全、麻放病(私の造語)など、



創立60周年 記念式典のもよう

院運営実態分析調査」に並び診療報酬改定への取り組みに本腰を入れる嚆矢となった出来事である。今後ともこの三本の矢を中心に、本連盟に加わる8病院団体は元より、全国の病院に寄ります。

自見はなこ大臣を 表敬訪問

全国公私病院連盟の邊見公雄会長は7月24日、内閣府本府庁舎中央合同庁舎に自見はなこ大臣【内閣府特命担当大臣沖繩及び北方対策、消費者



自見はなこ内閣府特命担当大臣(左)と邊見公雄会長(右)



望月 泉

八幡平市病院事業管理者兼八幡平市立病院統括院長
【公益社団法人 全国自治体病院協議会】

自治体病院は、救急、小児・周産期、感染症やがん治療等の高度医療のみならず、医療過疎地である山間へき地・離島において、民間では採算性の関係で対応が難しい医療も担っています。2024年は診療報酬改定年ですが、インフレ局面において診療報酬で病院運営にかかる諸経費を賄うことができず、また医師をはじめ多職種の人を増やせば高得点になる仕組みは、少子化が続くわが国では特に地方では限界となってきました。全国公私病院連盟が主導し、日本の医療提供体制を大きく左右する診療報酬のあり方を国民全体を巻き込みながら考えていく方向になればと願います。



浦田士郎

愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院 名誉院長
【全国厚生農業協同組合連合会】

全国厚生農業協同組合連合会は保健・医療・高齢者福祉事業を通じて地域社会に貢献することを使命に、全国で100病院・60診療所を運営しています。その歴史は、百年前の我国で、困窮し医療資源も乏しい農村地域での低廉な医療提供を目的に、相互扶助の精神を掲げて各地で設立されていた産業組合立病院に端緒を有し、地域住民自らが医師偏在を克服してきた道程です。過去を振り返ることは未来に責任を持つことでもあります。連盟創立60周年は、先人の貢献に思いを致し、未来をきり拓く決意を新たに作る機会でもあります。



三角隆彦

神奈川県済生会横浜市東部病院 院長
【全国済生会病院長会】

済生会は日本最大の社会福祉法人で、生活困窮者に医療を提供するため、明治44年、明治天皇の済生勅語によって恩賜財団として創設されました。各地に診療所を設け貧困所帯に無料の診療を行い、それが日本の社会福祉の幕開けとなりました。大正2年に第1号の神奈川県病院が横浜に開院し、現在では全国に82病院を有しています。全国済生会病院長会は昭和34年に発足し、病院長間の情報交換、連携の場として機能しています。現場の声を本連盟を通じて中央へ届け、政策に反映していただけるよう尽力して参ります。



中村哲也

医療法人社団明芳会 板橋中央総合病院 理事長
【日本私立病院協会】

公的、私的病院が団結して組織医療の向上と経済的、社会的地域の維持発展をすることは地域にとって意義があり、診療報酬対策の展開や、経営実態調査などの発刊は、わが国唯一の病院経営実態に基づく資料です。私ども日本私立病院協会の会員の多くは中小病院で地域医療を行っています。医療制度、税制問題、病院経営管理などに関する情報提供や研修会などは全国公私病院連盟を通じた活動となりますので、今後ともご活躍を願っております。

全国公私病院連盟のロゴができました。



一般社団法人

全国公私病院連盟

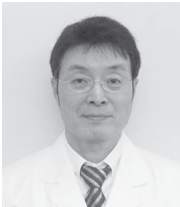
有機的なシンボルを連ね、「JHFP」の文字を表現しています。日本列島を模したデザインで、全国的なネットワークと地域社会への深いコミットメントを象徴しています。

丸みを帯びた形状は柔軟性と親しみやすさを連想させ、わずかな傾斜が成長を続ける意欲と進化し続ける行動力を示しています。

マークに用いた落ち着いた赤色は、成熟した組織の雰囲気や醸し出しつつ、情熱と活力に満ちた印象を演出します。

シンプルでありながらも多様な要素が凝縮されたデザインです。

副会長メッセージ



辻井正彦

地方独立行政法人 市立東大阪医療センター 総長
【全国公立病院連盟】

大正13年に創設された全国公立病院連盟は100年という日本で最古の歴史を誇る病院団体です。約100床以上の公立病院が会員となり、病院長、事務部長、看護部長が一堂に会し、各病院の経験や知見を活かした多様な視点での議論の下、課題を共有・解決する場を提供しています。戦中戦後6年間の休会期間を乗り越え、コロナ禍もハイブリッド開催を継続することで、情報共有の停滞を防いできました。全国公私病院連盟の下、他の病院団体との連携を深め、安定した病院経営を行い、より質の高い医療を提供できるように一丸となって励んでいく所存です。



牧野憲一

旭川赤十字病院 院長
【日本赤十字社病院長連盟】

日本赤十字社病院長連盟は全国に92病院を展開する病院グループです。救命救急センターやがん診療連携拠点病院などを有する大病院が多いのが特徴ですが、地方に位置する中小規模の病院や僻地医療を支える小規模病院もあります。これからの超高齢社会に向けて、医療を提供する我々は多くの課題を乗り越えなくてはなりません。全国公私病院連盟がこれからも病院団体のまとめ役として、存在感を示し日本の医療を良い方向に導いていくことを願っています。



難波義夫

医療法人社団同仁会 金光病院 理事長・院長
【一般社団法人 岡山県病院協会】

岡山県病院協会は、昭和37年に初代川崎裕宣会長の下で任意団体として設立され、昭和53年に社団法人格を取得し、平成24年から一般社団法人へ改組して現在に至っています。病院規模、病院機能、地域事情などそれぞれ異なる県下のすべての病院が、一致団結して、事務長会が中心になって、研修会開催、病院職員の福利厚生事業などの会員病院への支援事業、また、医師会、行政等とも協力して公益性の高い事業にも取り組み、特に会員病院のご協力により、経営内容の調査、公表を行い病院の経営の改善に取り組んでいます。



北村 立

石川県立こころの病院 院長
【一般社団法人 日本公的病院精神科協会】

精神科医療は、精神障害者を地域から隔離することを基本とした昭和の考えから、障害者の尊厳を守り、地域での生活を多職種で支えようという考えに進化しています。その流れを受けて、日本公的病院精神科協会（公精協）は、質の高い精神科医療の提供と人材育成を目的に平成30年4月に設立されました。現在、国立病院、自治体立病院、公的病院の135病院が加盟しています。また精神科医療だけに留まらず、地域医療を守る病院協議会にも加盟し、広い視野から国民のメンタルヘルスの向上に関わって参ります。

一般社団法人全国公私病院連盟について

全国公私病院連盟は、全国の公的・私的病院が団結して組織医療の向上と病院の経済的・社会的地位の維持発展を図ることを目的として、昭和39年7月11日に設立されました。以来、今日に至るまで国民医療の発展のために活動を続けています。

本連盟の加盟正会員は右記のとおり8団体であり、約1,500病院が加盟正会員に所属しています。

- 公益社団法人 全国自治体病院協議会
- 全国公立病院連盟
- 全国厚生農業協同組合連合会
- 日本赤十字社病院長連盟
- 全国済生会病院長会
- 一般社団法人 岡山県病院協会
- 日本私立病院協会
- 一般社団法人 日本公的病院精神科協会



式典挨拶
衆議院議員
森 英介様



記念式典のまよう



来賓祝辞
日本病院会
会長 相澤孝夫様



開会挨拶をする
全国公私病院連盟
邊見公雄会長



祝賀会挨拶
衆議院議員
谷 公一様



乾杯の発声
全国公私病院連盟
望月 泉副会長



全国公私病院連盟 会長・副会長



式典挨拶
社会福祉法人恩賜財団
済生会
理事長 炭谷 茂様



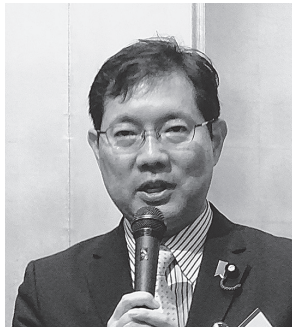
祝賀会のまよう



祝賀会挨拶
厚生労働省医務技監
迫井正深様



祝賀会挨拶
参議院議員
川田龍平様



祝賀会挨拶
衆議院議員
勝目 康様



中締め挨拶
全国公私病院連盟
難波義夫副会長



祝賀会挨拶
学習院大学学長
遠藤久夫様



祝賀会挨拶
日本慢性期医療協会
会長 橋本康子様



祝賀会挨拶
全日本病院協会会長
猪口雄二様



祝賀会挨拶
日本医師会副会長
茂松茂人様



祝賀会挨拶
厚生労働省医政局長
森光敬子様

全国公私病院連盟 60年のあゆみ

1964年(昭和39年)	7月 11日	「全国公私病院連盟設立総会」開催 事務局を東京都文京区湯島3-1におく
	7月 23日	初の理事会を開催し、会長・副会長・常務理事の互選を行った結果、初代会長に荘 寛先生が就任
	9月 1日	機関紙「全国公私病院連盟速報(現 公私病連ニュース)第1号」発行
1965年(昭和40年)	10月 14日	本連盟の組織大綱を決定
1966年(昭和41年)	6月	初の「病院経営実態調査」を実施
1969年(昭和44年)	12月 1日	「病院政治連盟」を結成し、第32回衆議院議員選挙に31名を推薦
1970年(昭和45年)	6月 25日	事務局を東京都渋谷区神宮前2-6-1へ移転
	6月 30日	「(第8回)定期総会」にて、第2代会長に近藤六郎先生が就任
1973年(昭和48年)	6月	「病院経営分析調査」を全国自治体病院協議会と合同で実施
1974年(昭和49年)	7月 11日	「設立10周年記念祝賀会」を開催
1976年(昭和51年)	6月 18日	「(第15回)定期総会」にて、第3代会長に五十嵐正治先生が就任
1978年(昭和53年)	2月	初の「診療報酬改定影響率調査」を実施
	10月	初の「病院部門別原価計算調査」を実施
	10月 16日	初の研修会として「(第1回)第一線医療従事者の研修」を開催
1984年(昭和59年)	2月 26日	初の「診療報酬改定説明会」を開催
	6月 26日	「(第25回)定期総会」にて、連盟結成20周年記念行事を開催
1985年(昭和60年)	6月 19日	初の海外視察団として「昭和60年度(第1回)海外病院看護婦視察研修団」を派遣
1986年(昭和61年)	6月 6日	「(第27回)定期総会」にて、第4代会長に田中 徹先生が就任
1989年(平成元年)	10月 21日	「(第1回)国民の健康会議」を開催
1990年(平成2年)	6月 26日	「(第1回)医療事故防止セミナー」を開催
1991年(平成3年)	6月 21日	「(第1回)診療報酬請求事務セミナー」を開催
1992年(平成4年)	6月 12日	「(第33回)定期総会」にて、第5代会長に遠山正道先生が就任

1994年(平成6年)	7月 13日	「(第35回)定期総会」にて、連盟結成30周年記念行事を開催
1995年(平成7年)	4月 6日	株式会社公私病連共済会を設立
1996年(平成8年)	10月 26日	事務局を東京都渋谷区神宮前2-17-6へ移転
1998年(平成10年)	12月 11日	「(第1回)看護管理セミナー」を開催
2000年(平成12年)	6月 21日	「(第41回)定期総会」にて、第6代会長に竹内正也先生が就任
2002年(平成14年)	5月 16日	事務局を東京都渋谷区神宮前2-6-1へ移転
2005年(平成17年)	1月 18日	「(第1回)DPCセミナー」を開催
	4月 26日	本連盟を含む主要10病院が加盟する「日本病院団体協議会」が発足
	9月 28日	邊見公雄副会長が中央社会保険医療協議会委員として尾辻厚生労働大臣(当時)より任命
	10月 27日	邊見公雄副会長が中央社会保険医療協議会委員として長妻厚生労働大臣(当時)より任命(※再任)
2009年(平成21年)	10月 27日	邊見公雄副会長が中央社会保険医療協議会委員として長妻厚生労働大臣(当時)より任命(※再任)
2011年(平成23年)	6月 2日	「地域における医療と介護の連携セミナー」を開催
	8月 22日	一般社団法人へ移行
2012年(平成24年)	6月 15日	「(第53回)定時総会」にて、第7代会長に篠原寛休先生が就任
2013年(平成25年)	2月 15日	「平成24年度(第11回)理事会」にて会長の互選を行い、第8代会長に高橋正彦先生が就任
2015年(平成27年)	6月 30日	「創立50周年記念式典および祝賀会」を開催
2016年(平成28年)	6月 17日	「(第57回)定時総会」にて、第9代会長に今泉暢登志先生が就任
	10月 13日	「サイバーリスク対策に関するセミナー」を開催
2019年(平成31年)	6月 19日	「(第60回)定時総会」にて、第10代会長に邊見公雄先生が就任
2020年(令和2年)	11月 19日	「コロナ・感染症対策特別セミナー」をWEB開催
2021年(令和3年)	3月 12日	「令和2年度(第13回)理事会」にて、日本公的病院精神科協会の加入が承認され、構成8団体となる
2024年(令和6年)	2月 13日	事務局を東京都台東区寿4-15-7へ移転
2024年(令和6年)	7月 11日	「創立60周年記念式典・講演会・祝賀会」を開催

今月の一冊

今月の1冊

今月の1冊は、近畿大学富岡勝教授から頂いた『深志の自治』である。先月の「吉田寮」より先に読んでいたが、前後して今月に。先月予約した通り紹介する。2冊には共通する部分が多い学生の自治、話し合いの重要性、少数意見の尊重。これらは学問の自由に結び付き、民主主義の根幹でもあろう。そして今曲がり角にも来ているものである。

まず読み始めたが、見慣れない単語が頻繁に出てくるので巻頭表紙裏にある深志用語集を見て予備知識を入れる事にした。序文、はじめには、編集の中心人物、井上義和氏「伝統校に眠る『隠れ資産』を掘り起こす」。今や旧制中学などの地方伝統校は中高一貫や東大進学予備校的な私立高校により、その存在価値が脅かされている。またバンカラはパワハラとか時代錯誤とか冷ややかな世相も強まっている。そういう人達や市民派の方々も『外の』として卒業生など伝説の『中の人』以外の人達を執筆に加えて、松本深志高校をフィールドにした教育学や社会学など異な

た専門の研究者の共同研究を出版した。都会の私立麻布高校の状況が記載され、類似点、相違点を対比している。第一部は深志生が捉えた自治の現在。鼎談つまり生徒、教師(学校、地域が話し合っている。学校の外に地域があるのではなく、地域の内に学校がある。部活の騒音問題解決から始まった3者会議がどんどん進化し、世論(せろん)を輿論(よろん)にする。皆で他人事でなく自分事にする過程が素晴らしい。三世代の卒業生のアンケート調査をそれぞれ時代の風潮、特性を反映して面白。特筆すべきは私も高校時代(旧制徳島中学)に経験したファイアストームで7月の4日間の文化祭、とんぼ祭りであろう。この為に応援団管理委員会(應援)や舞台装置委員会(舞装)などマニアックな伝統集団が通過儀礼的に新入生を洗脳する。外の人の代表的著者、加藤善子(米田大学の初年度教育(全寮制)と同じ役割と、舞装は舞台装置を設ける技能集団、伊勢神宮の式年遷宮の宮大工と同じ様に技術継承もしっかりと。トップは委員長でなく大將。深志は敢えて教えず。京都大学とよく似ていて、卒業生も東大より京大のほうが人気というのよく解る。先月の「吉田寮」と同じスタイル。西部講堂は京大のシンボリックな所だが、この舞台もこれに近い。山本悟朗先生のLHR(ロングホール)はこの学校の最もユニークなものであろう。戦後初代校長、岡田甫先生の「起居有礼」を教え子達(岡田チルドレン)が脈々と受け継いでいるのは、高校が大学への予備校化に流れている現在では稀有の存在である。650万円の生徒会費、各部活の会計責任者が5日間話し合う接衝會は教師が見えざる手でPBL(Project Based Learning)を実践させている見本の様である。鬼に角、教育に真理への一筋の道を今だに守っている素晴らしい学校。私が文部

科学省は松本か、よし一冊である。んば盛岡、高梁かという一つの根拠でもある。先月の「吉田寮」国公私病院連盟会長、赤穂市民病院名誉院長と並べて併読して欲しい。



ご紹介
創立60周年記念式典の懇親会でご挨拶・ご登壇いただいた方々をご紹介します(順不同)。紙面の都合で掲載できなかった方にはお詫言ひ申し上げます。

全国公私病院連盟の各種団体保険

病院賠償責任保険

- ・勤務医師賠償責任保険(包括契約・個人契約)
- ・看護職賠償責任保険(包括契約)
- ・医療従事者賠償責任保険(包括契約)

医療機関用サイバー保険

医療廃棄物排出者責任保険

医療機関用受託者賠償責任保険

現金総合保険

医療事故調査費用保険

訪問看護事業者賠償責任保険

保育所賠償責任保険・保育所傷害保険

医療施設特約オプション

雇用慣行賠償責任保険

使用者賠償責任保険

居宅事業者総合保険

＜お問合せ先＞

取扱代理店

引受保険会社

株式会社 公私病連共済会

〒111-0042 東京都台東区寿 4-15-7

食品衛生センター7階

TEL 03-5830-6193 FAX 03-5830-6194

受付時間：平日の午前9時から午後5時まで

損害保険ジャパン 株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿 1-26-1

TEL 03-3349-5113 FAX 03-6388-0153

受付時間：平日の午前9時から午後5時まで

保険の詳細内容については、取扱代理店または損保ジャパンまでお問い合わせください。

佐々木昌弘様(厚生労働省大臣官房危機管理・医務技術総括審議官)



鷺見 学様(厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部長)



山本信夫様(日本薬剤師会顧問)



渡邊大記様(日本薬剤師会副会長)

小野 剛様(全国国民健康保険診療施設協議会会長)

松本昌美様(南和広域医療企業団副企業長)

邊見達彦様(徳島県鳴門病院名誉院長)

井上峰夫様(九十九里ホム理事長)

中野一夫様(株式会社ヘルスケア・システム研究所相談役)

久原尚美様(株式会社工ヌジューシー取締役)

森 昌平様(日本薬剤師会副会長)

押淵 徹様(国民健康保険平戸市民病院名誉院長)

梶原伸介様(宇和島病院事業管理者)

金子隆昭様(彦根市病院事業管理者)

赤木重典様(京丹後市立久美浜病院院長)

森本泰介様(京都市立病院名誉院長)

鈴木充子様(株式会社ヘルスケア・システム研究所アドバイザー)

室井延之様(神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部長)

吉嶺文俊様(新潟県立十日町病院院長)

中房祐司様(福岡赤十字病院院長)

三輪聡一様(公立豊岡病院組合立豊岡病院院長)

吉田茂夫様(北見赤十字病院名誉院長・特別顧問)

金子晃三様(株式会社ヘルスケア・システム研究所代表取締役社長)